

科目コード	51510	授業科目	成人・老年保健看護特論 I Adult and Geriatric Health Nursing Theory I		担当教員	○大湾明美 神里みどり 山本敬子	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（領域必修）	時間数	30時間				
授業概要	成人・老年保健看護の対象を理解し、課題が導けるように関連する概念や理論を学ぶ。また、最新の高齢者のケアシステムや高齢者ケアの方向性、がん看護、慢性疾患看護についての知識、理論を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人・老年保健看護領域における概念や理論を概観できる。 2. 諸理論を用いて対象を捉えることができ、課題が導ける。 3. 高齢者のケアシステムや新たな高齢者ケアの方向性から、看護の果たすべき役割と機能を習得する。 4. がん看護のモデルや症状マネジメント、補完代替療法を習得する。 5. 慢性期にある人のQOLと生活支援、病気の受容と自己管理支援を習得する。 						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1回	高齢者理解のための理論					大湾明美	
第2回	対象の捉え方とケアの方法論					〃	
第3回	高齢者のケアシステム					〃	
第4回	2015年の高齢者介護					〃	
第5回	新たな高齢者ケア					〃	
第6回	看護の果たすべき役割と機能					〃	
第7回	老年保健看護に関する院生のプレゼンテーション					〃	
第8回	がん看護における症状マネジメント					神里みどり	
第9回	がん看護における全体性パラダイムモデル					〃	
第10回	がん看護と補完代替療法					〃	
第11回	慢性期にある人の特徴					山本敬子	
第12回	慢性期にある人のQOLと生活支援					〃	
第13回	病気の受容と自己管理の支援					〃	
第14回	成人保健看護に関する院生のプレゼンテーション					神里・山本	
第15回	まとめ					大湾明美	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。						
成績評価の方法	評価は、授業への参加態度や討論、プレゼンテーションや課題レポートを総合して行う。						
備考	教育の進め方は、各教員が専門的立場から講義形式で行う。 運営は、院生の発表と討議により理解を深める。						

科目 コード	51520	授業 科目	成人保健看護演習 Adult Health and Nursing Seminar			担当 教員	○神里みどり ○山本敬子 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間					
授業概要	ライフサイクルからみた成人保健看護上の課題を検討し、専門看護職者に必要な課題解決方法・技法について国内外の文献批評を通して、研究課題や実習課題を明確化できるようにする。それに関して必要な知識、理論と方法を習得する。							
到達目標	1. 慢性疾患やがん看護領域の看護実践についての最新の知識、技術について述べることができる。 2. 慢性疾患やがん看護領域の事例を通して、看護実践上の重要課題を導くことができる。 3. 慢性疾患やがん看護領域における看護援助の開発方略について述べるができる。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
第1～30回	<専門領域ががん看護の場合> がん看護領域の看護実践に関する保健・看護援助の現状 （日本・米国・その他諸外国の動き） がん看護領域における看護理論と看護実践への応用 エビデンス・ベースド・プラクティスの実践現場への応用 がん看護領域における看護援助の開発：症状緩和 がん看護領域における看護援助の開発：代替療法 がん看護実践の場で課題となる事例検討 がん看護領域における実習課題の明確化 同上 同上						神里みどり 他	
第1～30回	<専門領域が慢性疾患看護の場合> 慢性疾患看護領域の看護実践に関する保健・看護援助の現状 プレゼンテーション 慢性疾患看護領域における看護理論と看護実践への応用 プレゼンテーション 慢性疾患看護の実践の場における課題 事例検討 プレゼンテーション 〃						山本敬子 未定	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価 の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポートによる評価。							
備 考	国内外の文献を中心に批判、検討する。							

科目コード	51521	授業科目	成人保健看護実習 Adult Health and Nursing Practicum			担当教員	○神里みどり ○山本敬子 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間					
授業概要	医療機関、行政機関や福祉保健所、市町村などにおいて、特論及び演習を基に現場における課題とその課題解決方法をみいだす。疾病と共に生きる生活を視点に入れて専門的支援を実習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各諸施設における看護に関する機能・役割の相違を理解することができる。 2. 患者およびその家族の疾病・療養上の問題を明確化できる。 3. 事例を受け持ち、エビデンス・ベースドに基づいた看護計画を立てることができる。 4. 立案した計画を専門的知識・技術・判断能力を用いて看護援助の実践を行うことができる。 5. 実践した一連の看護援助を振り返り、今後の課題を見いだすことができる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1週	慢性疾患・がん看護領域のうち興味のある分野を特定し、実習計画を立てる。						神里みどり 山本敬子 謝花小百合 赤嶺伊都子 未定	
第2週	臨床実習							
第3週	臨床実習							
第4週	臨床実習							
第5週	臨床実習における一連の実習内容を振り返り、課題レポートとしてまとめる。							
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	評価：学生の医療施設実習記録、課題レポート							
備考	実習施設の選定、実習計画の作成、実習参加							

科目コード	51525	授業科目	老年保健看護演習 Geriatric Health Nursing Seminar			担当教員	○大湾明美 田場由紀	
開講年次	博士前期課程 1年次前期		単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）		時間数	60時間				
授業概要	老年保健看護がエビデンスに基づいて実践できるように重要な概念及び保健医療福祉政策を、最近の国内、国外の文献を通して分野の知識を深め、批判的に、研究方法、問題解決方法を学習する。また、文献による研究結果を自己の看護実践に応用するための分析、評価について学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年保健看護における重要な概念を理解することができる。 2. 老年保健看護における保健医療福祉政策から高齢者ケアの方向性を理解し、専門的な看護職者の役割を述べることができる。 3. 文献学習により分野の知識を深め、研究方法や問題解決方法の多様性を理解することができる。 4. 文献学習の結果を自己の看護実践とつなげ、看護実践の改善方法を提案することができる。 5. 学生の関心分野をもとに、研究上の疑問を明らかにし、実習や特別研究に役立てることができる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
1～2回	老年保健看護における重要な概念						大湾明美	
3回	高齢者の保健医療政策の方向性						〃	
4回	高齢者ケアの看護専門職者の役割						〃	
5～14回	文献学習（研究方法、問題解決方法等に関する文献を教員が提示）						田場・大湾	
15回	学習内容の報告及び自己の看護実践の問題提起(学生発表)						〃	
16～18回	看護実践の問題の明確化						〃	
19～27回	文献学習（自己の課題に関する文献を学生が提示） 文献から自己の課題の解決方法を学ぶ						〃	
28～30回	看護実践の改善についての計画書の報告及び課題の提案						〃	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	評価はディスカッション内容、発表内容等で評価する。							
備考	演習内容により、資料、文献を用いて実施する。運営は、前半が教員主導、後半が学生主導で行う。							

科目 コード	51526	授業 科目	老年保健看護実習 Geriatric Health Nursing Practicum			担当 教員	○田場由紀 大湾明美	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間					
授業概要	成人・老年保健看護特論Ⅰや老年保健看護演習等を基盤に、多様な地域や場で生活している高齢者（自立/要介護高齢者）を対象として、個々の対象特性を総合的にアセスメントし、高齢者の尊厳を支えるためのケア技法について実習し、看護職者としての専門的な実践能力を養う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある対象の特性と、生活の全体性・個別性・継続性・地域性の視点からアセスメントを行い、生活上の課題（生活ニーズ）について、看護の専門的視点で把握することができる。 2. 看護の専門的視点で捉えた生活ニーズを解決するための看護介入、及び必要な社会資源（インフォーマル/フォーマル・サポート）の活用ができる。 3. 高齢者の生活ニーズの解決に向け、看護ケアの向上のための具体的提案ができる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション及び実習計画書作成（3日間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 担当教員：授業概要、到達目標、心構え等について、オリエンテーションを実施する。 2) 学生：関心のある課題に基づき、実習目的、実習目標、実習先*¹、実習内容等を提案する。 3) 担当教員とのディスカッションを踏まえた上で、実習計画書*²を作成する。 *¹実習先の選定等：対象（自立/要介護高齢者）及び地域（離島・過疎/都市地域等）の選定及び順序については、対象や地域及び学生の状況と調整し、計画していく。 *²実習計画書の内容：実習目的、実習目標、実習先、実習内容、実習方法、実習スケジュール、実習記録等。 2. 離島・過疎地域で生活する高齢者の実習（5日間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 関係者や既存資料からの情報収集、地区踏査を行い、対象特性と地域特性を把握する。 2) 対象と実際に関わり、直面している生活ニーズや将来予測される課題について、明確化する。 3) 対象の課題解決に向け、看護職者の役割と社会資源の活用方法を含め、ケア計画を立案する。 4) ケア計画に基づき、対象が地域での生活が継続するために必要な直接ケア、相談、調整、教育機能について、担当教員及び実習先の指導者のもとに実施する。 5) 実習したことを実習目的・実習目標に沿って評価し、レポートを作成する。 3. 中間報告及びディスカッション（1日間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 中間報告として、視聴覚機材を活用し、実習内容等について、プレゼンテーションする。 2) 学生と担当教員を交えて、ディスカッションを行う。 4. 都市地域で生活する高齢者の実習（5日間） 上記2.と同様。 5. 最終報告及びディスカッション（2日間） <ol style="list-style-type: none"> 1) 最終報告として、実習した地域や場、対象の特性を比較し、具体的介入についてプレゼンテーションする。また、新たな看護ケア向上のための具体策も提案する。 2) 学生のプレゼンテーションを踏まえて、看護職者の専門的な実践能力についてディスカッションを行う。 3) レポートの作成 						田場由紀 大湾明美	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。							
備考	学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。							

科目コード	51531	授業科目	成人・老年保健看護特別研究 I Adult and Geriatric Health Nursing Special Study I			担当 教員	◎神里みどり ◎大湾明美 ◎山本敬子 謝花小百合、赤嶺伊都子 田場由紀、 未定(成人)	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・特別研究	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	240時間					
授業概要	成人・老年保健看護領域において院生が自ら研究課題をみつけ、文献検討、研究対象と方法、技法を選択し、データを収集し、結果を分析、考察して論文を完成することを学習する。この過程から学問をする態度、倫理性、科学的思考、学問を通しての社会的貢献などを学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究プロセスを理解し、研究指導教員の指導の下に実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現法などの基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 研究する者として必要な倫理的態度を身につける。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
1年次	<p>4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定＊ 履修指導、履修届の提出＊</p> <p>関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成</p> <p>毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討＊ 研究倫理審査申請＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析</p>						神里みどり 大湾明美 山本敬子 謝花小百合 赤嶺伊都子 田場由紀 未定(成人)	
2年次	<p>10月(4月) 研究結果検討会・・・研究結果の検討＊ 主査・副査の決定 考察・論文作成</p> <p>12月(6月) 修士論文 第1稿・学位審査申請書の提出＊ 1月(7月) 中間発表会＊ 修士論文 最終稿 の提出＊</p> <p>2月(8月) 論文審査・最終試験＊ 可否および修了判定</p> <p>3月(9月) 公開発表会＊ 修士論文 保存版 の提出＊</p> <p>※()内は、前学期修了者の日程</p>							
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。							
成績評価の方法	審査委員会により論文審査および最終試験(口頭または筆答による)を行う。							
備考	注)＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。							

科目 コード	51532	授業 科目	成人・老年保健看護課題研究 Adult and Geriatric Health Nursing Problem Study			担当 教員	◎神里みどり ◎大湾明美 ◎山本敬子 謝花小百合、赤嶺伊都子 田場由紀、 未定（成人）	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	8単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	240時間					
授業概要	成人・老年保健看護領域に関連した現場の中で自ら選択する課題に焦点をあて、課題に関する最新の知識を収集し理解した上で、問題解決の方法と技法を考究し、実践の結果を分析、考察して報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下、課題を発見し、問題解決方法や技法を考究し、実施できる。 2. データ収集・分析、文章表現方法など基本的技法やマナーを習得できる。 3. 論理的思考ができ、分析力を習得できる。 4. 実践家として必要な倫理的態度を身につける。 5. 専門職種として生涯学習する態度を身につける。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
1年次	4月 入学時ガイダンス：研究指導に関するオリエンテーション 研究指導教員希望届の提出・決定＊ 履修指導、履修届の提出＊ 関心あるテーマ周辺の文献探索と検討 研究テーマの明確化・研究計画書作成 毎月 研究計画検討会・・・研究計画書の検討＊ 研究倫理審査申請＊ 研究フィールドの依頼と決定 データ収集・分析						神里みどり 大湾明美 謝花小百合 赤嶺伊都子 田場由紀 未定（成人）	
2年次	6月・10月（2月） 総合科目試験＊ 10月（4月） 研究結果検討会・・・研究結果の検討＊ 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月（6月） 課題研究 第1稿・学位審査申請書の提出＊ 1月（7月） 中間発表会＊ 課題研究 最終稿 の提出＊ 2月（8月） 課題研究審査・最終試験＊ 合否および修了判定 3月（9月） 公開発表会＊ 課題研究 保存版 の提出＊ ※（ ）内は、前学期修了者の日程							
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ、文献・参考資料を提示する。							
成績評価 の方法	審査委員会により総合科目試験（口頭および筆答）、課題研究報告書の審査および最終試験（口頭または筆答）を行う。							
備考	注）＊印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自提示には十分注意を払うこと。 担当教員欄の◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。							

科目 コード	51641	授業 科目	実践がん看護特論 I Practical Oncology Nursing Theory I			担当 教員	○神里みどり、金城芳秀 佐伯宣久、非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講 義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	がん看護に必要ながんの病態生理、がんの診断と最新の治療方法、がんの疫学、予防、早期発見について学び、がん看護実践で応用できる専門的アセスメント能力の基盤を養う。							
到達目標	1. 発がんメカニズムを理解し、がんの病態生理について述べることができる。 2. がんの各種治療方法について説明することができる。 3. がんの予防と早期発見について説明することができる。 4. 病態生理を基盤においたアセスメントについて説明できる。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
第1回	がんの疫学と予防、早期発見 ・疫学研究からみたがん予防 ・がんの一次予防から三次予防まで						金城・神里	
第2回	がんの診断と病態分類 ・がんの発生とメカニズム、診断、病期別分類						佐伯	
第3回	がんの手術療法 ・肺がんの病期に応じた治療方法とその選択、術後の侵襲						川畑勉 (非常勤)	
第4・5回	がんの化学療法と病態生理 ・化学療法の作用機序と薬剤の種類 ・分子標的薬、副作用症状とその対策：血液疾患の事例						福島卓也 (非常勤)	
第6・7回	がんの放射線療法と病態生理 ・放射線療法の特徴と原理・方法 ・放射線治療による早期・晩期障害：頭頸部がん、子宮がん						戸板孝文 (非常勤)	
第8回	がんの内分泌療法と病態生理 ・乳がん患者の内分泌療法や薬物療法の目的と特徴						玉城研太郎 (非常勤)	
第9回	がんの再発・転移のメカニズムと治療 ・局所・領域・遠隔転移の特徴 ・血行性転移とリンパ行性転移 ・再発乳がんの診断・治療・予後						玉城研太郎 (非常勤)	
第10回	がんの薬物療法とその薬理作用のメカニズム ・術前化学療法・術後化学療法・化学放射線療法、 抗がん剤のレジメン ・抗がん剤に伴う有害反応対策、血管外露出の予防と対処						永井賢作 (非常勤)	
第11回	がん診療におけるチーム医療 ・緩和ケアにおけるチームアプローチと精神科医の役割 ・がんサバイバーシップの概念とサポートグループ						新屋洋平 (非常勤)	

第12回	がん緩和医療におけるサイコオンコロジー ・がん患者の心の評価とサポートの4段階 ・緩和ケアにおける精神的ケア：適応障害（不安・うつ・せん妄）の診断と治療 ・基本的なコミュニケーションスキル、悪い知らせの伝え方（SHARE）	新屋洋平 （非常勤）
第13回	がん患者のリンパ浮腫のメカニズムと対処法 ・リンパ浮腫の病態・起こる原因、症状 ・がん治療後の後遺症としてのリンパ浮腫の治療 ・リンパ浮腫患者のケア、合併症	松原忍 （非常勤）
第14回	がん治療における治験とエビデンス ・治験の目的と種類・方法、臨床への還元	金城
第15回	がん患者の病態生理を中心としたアセスメントの事例検討 ・これまで受け持ったことのある事例を振り返り、これまで学んできたアセスメントの視点を活用して、事例を分析しプレゼンテーションを行う。	神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本看護協会. (2014). 外来がん化学療法 看護ガイドライン. 金原出版 ・リンパ浮腫研究会. (2014). リンパ浮腫 診療ガイドライン. 金原出版 ・日本乳癌学会（編集）. (2014). 患者さんのための乳がん診療ガイドライン 2014年版. 金原出版 ・一般社団法人日本血液学会. (2013). 「造血管腫瘍ガイドライン」2013年版, 金原出版 ・千葉百子. (2009). がんの世界地図. 丸善株式会社 ・日本がん・生殖医療研究会. (2013). がん・生殖医療 妊孕性温存の診療、(2013) 医歯薬出版 ・小林正伸. (2014). やさしい腫瘍学からだのしくみから見る“がん”. 南江堂 ・『コンセンサス癌治療』編集委員会. (2013). 新 癌についての質問に答える. へるす出版 ・日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版：手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・大中俊宏、岸本寛史(翻訳). (2013). MDアンダーソン サイコソーシャル・オンコロジー. メディカルサイエンスインターナショナル ・財団法人医療研修推進財団、精神腫瘍学クイックリファレンス、創造出版、2009. ・ディビット・スピーゲル、キャサリン・クラッセン著. (2003). がん患者と家族のためのサポートグループ、医学書院 ・がんの告知と看護師の役割、がん看護、15(1)、2010. ・柴木実枝(監)、濱口恵子・花出正美(編). (2015). 見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング. 学研メディカル秀潤社 ・随時参考文献・資料を別途配布する。 	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備考	事前学習として各テーマの授業に関連した参考資料を熟読すること。	

科目コード	51642	授業科目	実践がん看護特論Ⅱ Practical Oncology Nursing TheoryⅡ			担当教員	○神里みどり 前川厚子(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	がん看護に必要な主なる理論について理解し、実践や研究で活用できる能力を養う。							
到達目標	1. がん看護に関する主なる理論の概念について説明できる。 2. 理論を活用して、事例を分析する方法を説明できる。 3. 理論を活用して、介護介入の方法を説明できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1・2回	がん看護における理論を活用した実践と研究の動向 ・実践での理論の活用方法とがん患者・家族を理解する上での理論について ・文献を活用した国内外の理論を活用した研究の動向						神里	
第3回	危機理論と看護介入 ・危機理論を活用したがん患者・家族の理解と看護介入 ・危機理論を活用した事例検討						神里	
第4回	悲嘆理論と看護介入 ・悲嘆理論を活用した終末期がん患者と家族の理解：予期的悲嘆や悲嘆プロセスの理解 ・悲嘆理論を活用した事例検討						神里	
第5回	ストレス・コーピング理論と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した患者・家族の理解と看護介入 ・ストレス・コーピング理論を活用した事例検討						神里	
第6・7回	症状マネジメントモデル ・症状マネジメントモデルを活用したがん患者の苦痛症状の理解と看護介入 ・症状マネジメントモデルを活用した事例検討						神里	
第8・9回	全体性パラダイムに基づく理論 ・マーガレット A. ニューマンの健康モデルを活用したがん患者の理解と看護介入 ・健康モデルを活用した事例検討						神里	
第10・11回	スピリチュアルケアに関する理論的枠組み ・終末期がん患者のスピリチュアルペインの概念と患者理解 ・終末期がん患者のスピリチュアルケアの実際						神里	
第12回	ボディイメージ、セクシュアリティとがん看護援助 ・事例を通じたがん患者のボディイメージとセクシュアリティについて						前川 (非常勤)	
第13回	がんサバイバーと在宅家族支援モデル ・がんサバイバーシップの概念と患者理解 ・在宅におけるがん患者と家族の支援モデルについて						前川 (非常勤)	

第14・15回	<p>がん看護の理論的枠組みを活用した事例検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習してきた理論を活用して、学生が体験したがん患者と家族の実際の事例について分析する。 	神里
テキスト	<p>日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院</p> <p>遠藤恵美子. (2003). 希望としてのがん看護. 医学書院.</p>	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・小島操子. (2013). 看護における危機理論・危機介入 第3版. 金芳堂. ・筒井真優美(編). (2015). 看護理論(改訂第2版) 看護理論20の理解と実践への応用、南江堂 ・日野原重明. (2014). 実践 がんサバイバーシップ—患者の人生を共に考えるがん医療をめざして. 医学書院 ・近藤まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ—“生きぬく力”を高めるかかわり. 仲村書林 ・勝俣範之. (2012). がんサバイバー—医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす. 医学書院 ・Patricia A. Ganz, (2007). Cancer Survivorship, Springer, Springer. ・近藤まゆみ, 峰岸秀子(編). (2006). がんサバイバーシップ. 医歯薬出版株式会社. 2006. ・遠藤恵美子. (2001). マーガレット・ニューマン“健康の理論”がひらくもの 希望としてのがん看護. 医学書院. ・遠藤恵美子, 三次真理, 宮原知子. (2014). マーガレット・ニューマンの理論に導かれたがん看護実践, 看護の科学者. ・特集ケアリングパートナーシップの実践的研究 M. ニューマンの健康の理論に基づいて、Quality Nursing 9, 2003, 文光堂. ・パトリシア J. ラーソン/内布敦子. (1998). Symptom Management 患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用. 日本看護協会出版会 ・新しい症状マネジメントの概念と実践. インターナショナルナーシングレビュー. 82 20. 1997 ・在宅移行のためのマネジメント 緩和ケア. 19. 2009、青海社. ・メイブ・ソルター(編). 前川厚子(訳). (1992). ボディ・イメージと看護. 医学書院. ・濱口恵子他. (2009). がん患者の在宅療養サポートブック. 日本看護協会. ・新しいケアの創造に向けたがん患者・家族の理解. 看護研究 39. 2006, 医学書院. ・阿部 まゆみ/安藤 詳子. (2015). がんサバイバーを支える緩和ケア・サロン, 青海堂 ・一般社団法人がん看護学会 (著). (2015). 女性性を支えるがん看護 (がん看護実践ガイド). 医学書院 ・窪寺俊之, アルフォンス・デーケン. (2016). スピリチュアルな存在として (スピリチュアルケアを学ぶ). 聖学院大学出版会 ・江本 愛子 (翻訳). (2008). スピリチュアルケア—看護のための理論・研究・実践. 医学書院 ・岡本拓也. (2014). 誰も教えてくれなかったスピリチュアルケア. 医学書院 ・随時参考文献・資料を別途配布する。 	
成績評価の方法	<p>授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)</p>	
備考	<p>事前学習として、理論の概念に関する文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。</p>	

科目 コード	51643	授業 科目	実践がん看護特論Ⅲ Practical Oncology Nursing TheoryⅢ			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 新貝夫弥子(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	がん治療によって生じる苦痛症状を予防するための方法や、苦痛症状を早期発見するためのアセスメント指針や苦痛緩和の看護援助法についてエビデンス・ベースド・プラクティスの概念に基づいて探求する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん治療による苦痛症状の予防方法について説明できる。 2. がん治療による苦痛症状のアセスメントについて説明できる。 3. がん患者の症状マネジメントについて説明できる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1・2回	エビデンス・ベースド・プラクティスに基づいた症状マネジメント ・エビデンス・ベースド・プラクティスと症状マネジメントの概念 ・国内外の研究論文にみるがん患者の症状マネジメントの方略						神里	
第3・4回	化学療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・化学療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・化学療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助(有害事象のアセスメントと予防含む)						新貝 (非常勤) (CNS)	
第5・6回	放射線療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・放射線療法を受ける患者・家族に対する教育・意思決定プロセスの支援 ・放射線療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助(有害事象のアセスメントと予防含む)						神里	
第7回	内分泌療法とその看護(副作用症状のマネジメント含む) ・内分泌療法中の副作用症状のアセスメントと苦痛症状に対する看護援助						神里	
第8回	術後機能障害とその看護 ・術後機能障害を生じたがん患者に対するアセスメントとQOL向上に向けた看護援助の実際						新貝 (非常勤) (CNS)	
第9・10回	緩和医療としての化学療法と放射線療法の看護援助 ・緩和を目的とした化学療法の看護援助 ・緩和を目的とした放射線療法の看護援助						謝花	
第11回	症状緩和のためのガイドラインの活用 ・がん患者の苦痛症状を緩和するためのガイドラインを臨床で活用していくための方略						謝花	
第12回	外来通院中の患者の看護援助と地域支援体制 ・がん治療中やがんのフォローアップ中、緩和ケア目的のために通院治療しているがん患者と家族の支援体制						謝花	
第13・14回	症状緩和のための補完代替療法 ・がん療養中(治療から終末期まで)の患者・家族に対する補完代替療法 ・米国がん看護学会のPEPカードに提示されている補完代替療法の活用						神里	

第15回	エビデンスに基づいた症状マネジメントの看護援助の開発 ・がん患者の苦痛症状を取り挙げた事例を提示し、エビデンス・ベースド・プラクティスの概念やガイドラインを参考に、症状緩和の看護援助について考察する。学生のプレゼンテーションと討論。	神里
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本リハビリテーション医学会 がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会. (2013). がんのリハビリテーションガイドライン. 金原出版 ・日本がんリハビリテーション研究会. (2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス. 金原出版 ・鈴木志津枝, 小松浩子監修, 日本がん看護学会翻訳ワーキンググループ. (2013) がん看護 PEP リソース 患者のアウトカムを高めるケアのエビデンス (2013). 医学書院 ・日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・日本看護協会. (2014). 外来がん化学療法 看護ガイドライン. 金原出版 ・日本放射線腫瘍学会編. (2012). 放射線治療計画ガイドライン 2012 年版. 金原出版 ・日本乳癌学会 (編集). (2015). 科学的根拠に基づく 乳癌診療ガイドライン 2 疫学・診断編 2015年版. 金原出版 ・特定非営利活動法人 日本緩和医療学会 緩和医療ガイドライン委員会 (編集). (2016). がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・小澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎. (2015). 緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-, 南江堂 ・田原信(編), 鈴木真也・榎田智弘. (2015). 地域医療連携サポート BOOK フローチャートでわかるがん化学療法の副作用. 南江堂 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著). (2015). がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる 7つのフェーズ・21 の実践. 中央法規 ・Robert Twycross(著), Andrew Wilcock(著), Claire Stark Toller(著), 武田文和(翻訳). (2010). トワイクロス先生の がん患者の症状マネジメント 第2版, 医学書院 ・辻 哲也 (編集). (2011). がんのリハビリテーションマニュアル: 周術期から緩和ケアまで 医学書院 ・ケリー・ターナー著、長田美穂訳. (2014). 余命宣告から「劇的な寛解」に至った人たちが実践している 9つのこと、がんが自然に治る生き方、プレジデント社 ・日本緩和医療学会. (2016). がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016 年版. 金原出版 ・日本緩和医療学会 (2014). 専門家をめざす人のための緩和医療学. 南江堂 <p>・必要に応じて紹介する。随時参考資料を配布する。</p>	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備考	事前学習として、症状マネジメントに関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。	

科目 コード	51644	授業 科目	実践がん看護特論Ⅳ Practical Oncology Nursing TheoryⅣ			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 吉澤 龍太(非常勤) 笹良剛史(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講 義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	緩和ケア領域と終末期におけるがん患者と家族に対する看護援助について習得し、がん看護専門看護師の役割と変革者としての方略を学ぶ。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緩和ケアの概念について説明できる。 2. 緩和ケアにおける看護援助法について説明できる。 3. 終末期におけるがん患者、家族・遺族ケアについて説明できる 4. がん看護専門看護師の役割について説明できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
第1回	緩和ケアの概念と看護の役割						神里	
第2回	国内外における緩和ケアと終末期看護に関する現状と課題						謝花	
第3回	緩和ケア領域における看護介入の方略						謝花	
第4・5回	がん性疼痛のメカニズムと薬物療法 ・がん性疼痛のメカニズム ・がん性疼痛のアセスメント、薬物療法と副作用症状のマネジメント						笹良 (非常勤)	
第6・7回	がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入 ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法のエビデンス ・がん性疼痛緩和のための非薬物的療法の介入の実際						神里	
第8・9回	スピリチュアルペインのアセスメントとそのケア ・スピリチュアルペインのアセスメントとその指標(臨床で活用可能なシート) ・スピリチュアルケアの実際：事例を用いた患者・家族への援助スピリチュアルペインのアセスメントとそのケア						謝花	
第10回	がん患者と家族・遺族のサポートのためのプログラム						謝花	
第11回	緩和ケアチームと多職種協働 ・緩和ケアチームにおける看護師の役割と多職種協働(医師、薬剤師、ソーシャルワーカー、ボランティアなど：退院調整を含む)						吉澤 (非常勤) (CNS)	
第12回	終末期がん患者・家族を取り巻く倫理的問題とアドボカシー						謝花	
第13・14回	変革者としてのがん看護専門看護師の実践的活動と役割 ・実践現場における専門看護師の活動の実際：6つの役割 ・変革者としての課題解決の実例						吉澤 (非常勤) (CNS)	

テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・井部俊子・大生定義（監修）. (2015). 専門看護師の思考と実践、医学書院 ・日本緩和医療学会. (2014). がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版. 金原出版. ・日本緩和医療学会. (2013). 終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン 7 版. 日本緩和医療学会. 金原出版 ・日本緩和医療学会. (2013). 苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン. 日本緩和医療学会. 金原出版 ・近藤まゆみ, 嶺岸秀子(編). (2006). がんサバイバーシップ がんとともに生きる人々への看護ケア. 医歯薬出版. ・近藤 まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ―“生きぬく力”を高めるかわり. 仲村書林 ・季羽俊文子, 丸口ミサエ(監修). (2005). がん患者と家族のサポートプログラム「がんを知って歩む会」の基本と実践. 青海社. ・緩和ケア編集委員会. (2007). 緩和ケアにおけるがん患者の家族ケア. 青海社. ・緩和ケア編集委員会. (2009). 緩和ケアをとともに学ぶ、教える一伝えようとするスタッフのために一. 青海社. ・千崎美登子. (2008). 事例で学ぶがん患者の退院調整～困難事例の“解決”を探る～. がん看護. 13. ・「緩和医療学」編集委員会(著). (2009)がん在宅医療と緩和医療. 緩和医療学. ・平原 佐斗司. (2013). チャレンジ! 在宅がん緩和ケア (在宅医療の技とこころ). 南山堂 ・柴木実枝(監), 濱口恵子・花出正美(編). (2015). 見てできる臨床家ケア図鑑 がん看護ビジュアルナーシング. 学研メディカル秀潤社 ・市橋亮一・若林栄樹・荒木篤(著). (2015). がん患者のケアマネジメント在宅ターミナルをささえる7つのフェーズ・21の実践. 中央法規 ・狩野太郎・神田清子(編), 日本がん看護学会(監). (2015). がん看護実践ガイドがん治療と食事 治療中の食べるよろこびを支える援助, 医学書院 ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎. (2015). 緩和ケアの基本66とアドバンス44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-. 南江堂 ・東京女子医科大学病院看護部(編著). (2015). 急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ. 中央法規 ・国内外の最新の学術論文を随時資料として配布する。
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。

科目コード	51645	授業科目	実践がん看護演習 I Practical Oncology Nursing Seminar I			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合 濱田香純(非常勤) 玉井なおみ(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	最新の文献を活用し、がんの告知から診断・治療・フォローアップ、予防に至るまでのがん患者や家族に対する看護援助の基礎的概念を理解し、介入モデルを実践で活用できる能力を養う。							
到達目標	1. がん看護に関する最新の看護援助について述べることができる。 2. がん患者の状態に応じた看護援助について説明できる 3. 実践で活用可能な看護介入モデルについて説明できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1・2回	国内外におけるがん看護専門職者の活動の現状 ・国内におけるがん看護専門看護師の活動の現状 ・諸外国におけるがん看護専門看護師の活動の現状(英国・米国・台湾)						神里	
第3回	がん対策基本法におけるがん看護の役割						神里	
第4回	病名告知と予後告知における患者・家族への看護介入モデル						神里	
第5回	治療の選択とセカンドオピニオン時における看護援助(意思決定支援など)						神里	
第6・7回	手術療法と看護援助 ・がんの部位別にみる周手術期のアセスメントの特徴とその看護(2事例以上のがんの部位別による特徴) ・術後退院調整、術後機能障害、リハビリテーションに関する事例検討						謝花	
第8・9回	放射線療法と看護援助 ・がんの部位別による放射線療法のアセスメントの特徴とその看護(頭頸部がんとその他の部位別の事例による特徴) ・外来放射線療法を受ける患者・家族の困難事例の検討						謝花	
第10・11回	化学療法と看護援助 ・化学療法の有害事象を早期発見するためのアセスメントとその看護 ・外来化学療法を受ける患者・家族の困難事例の検討						謝花	
第12・13回	がん看護におけるテレナーシングとトリアージ ・がん看護におけるテレナーシング(通院や在宅の患者・家族対象)の技法 ・がん看護におけるトリアージ(通院や在宅の患者・家族対象)の技法						神里	
第14・15回	急変・救急時におけるがん看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族のアセスメントと看護援助 ・急変・緊急時におけるがん患者・家族の事例検討						謝花	

第16・17回	がんサバイバーと家族に対する心理・社会的な看護援助 ・がんサバイバーと家族に対する心理・社会的な看護援助の特徴 ・院内・院外におけるサポートプログラムの実際	濱田 (非常勤)
第18・19回	がん予防に対する患者教育の開発と普及 ・がん予防に関する患者・家族への教育支援体制 ・がん予防活動を実践で展開していくための方略(活動事例)	玉井 (非常勤)
第20～24回	ホリスティックケアと補完代替療法のエビデンス ・がん看護におけるホリスティックケアの概念とアプローチの方法 ・補完代替療法のエビデンスを実践で活用するための方略 ・Putting Evidence for Practice カード(米国がん看護学会)の実践での活用 ・患者・家族に対するガイドラインを活用した補完代替療法の教育と看護実践 ・がん患者・家族の補完代替療法の活用に関する困難事例	神里
第25・26回	がん看護に関する看護介入モデルの検討① ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第27・28回	がん看護に関する看護介入モデルの検討② ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
第29・30回	がん看護に関する看護介入モデルの検討③ ・実際のがん患者や家族の困難事例を取り挙げて理論やアセスメントの視点やエビデンス(最新の文献)を活用して看護介入モデルを考察し討論する。	神里 謝花
テキスト	日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木 志津枝. (2013). がん看護 PEP リソース—患者アウトカムを高めるケアのエビデンス, 医学書院 ・日本がん看護学会 . (2014). 外来がん化学療法看護ガイドライン 1 2014 年版; 抗がん剤の血管外漏出およびデバイス合併症の予防・早期発見・対処、2014、金原出版 ・佐藤 禮子. (2009). がん化学療法・バイオセラピー看護実践ガイドライン, 医学書院 ・日本がん看護学会. (2017). がん看護コアカリキュラム日本版: 手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア. 医学書院 ・根拠がわかるがん看護ベストプラクティス. (2012). がん看護, Vol. 17 No. 2, 2012、南江堂 ・がん治療に伴う変化をとらえる 実践に生きるアセスメントツール. (2014). がん看護, Vol. 19 No. 7. 南江堂 ・がんサバイバーシップの今. (2012). がん看護, Vol. 17 No. 4, 南江堂 ・Kenneth D. Miller (編)、勝俣 範之 (監訳). (2012). がんサバイバー 医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす, 医学書院 ・日野原 重明 (監). (2014). 実践 がんサバイバーシップ—患者の人生を共に考えるがん医療をめざして, 医学書院 ・近藤 まゆみ、嶺岸 秀子 (編). (2006). がんサバイバーシップ— がんとともに生きる人びとへの看護ケア, 医歯薬出版 ・近藤 まゆみ. (2015). 臨床・がんサバイバーシップ— “生きぬく力” を高めるかかわり. 仲村書林 ・聖路加看護大学テレナーシング SIG (編). (2013). テレナーシング実践ガイドライン, ワールドプランニング ・Margaret Hickey Susan Newton : Telephone triage for oncology nurses. (2012). Oncology Nursing Society 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・山崎 章郎、二ノ坂保喜著、米沢慧編. (2012). 病院で死ぬのはもったいない、いのちを受けとめる新しい町へ, 春秋社 ・日本放射線腫瘍学会 編集. (2012). 放射線治療計画ガイドライン 2012 版、金原出版 ・丹生健一、佐々木良平、鈴木志津江. (2011). 目で見て学ぶ放射線療法の有害反応 多職種チームで実践する治療と患者支援、日本看護協会出版会. ・勝俣 範之. (2012). がんサバイバー—医学・心理・社会的アプローチでがん治療を結いなおす. 医学書院 ・中根 実. (2015). がんエマージェンシー: 化学療法の有害反応と緊急症への対応 医学書院 ・日本がん看護学会. (2016). オンコロジックエマージェンシー—病棟・外来での早期発見と帰宅後の電話サポート (がん看護実践ガイド). 医学書院 <p>国内外の最新の学術論文を資料として配布する。</p>
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)
備考	事前学習として、国内外のがん看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。

科目 コード	51646	授業 科目	実践がん看護演習Ⅱ Practical Oncology Nursing Seminar Ⅱ			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次		単位数	2単位	科目 分類	専門科目・演習	授業 形態	演習
選択必修	選択(分野必修)		時間数	60時間				
授業概要	緩和ケア・終末期がん看護に関する課題に焦点をおき、国内外の最新の文献検討やがん看護実践活動を通して、高度な専門的実践能力を養うための知識や技法を習得する。特にがん患者の苦痛症状マネジメントに関するアセスメントとエビデンスに基づいた看護援助の方法に焦点をあてた学習を行う。また、実習、課題研究を行うために自己の課題に関する概念枠組みについて探求する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 終末期におけるがん看護援助について説明できる。 2. 苦痛症状のアセスメントの技法について説明できる。 3. 症状マネジメントの看護援助について説明できる。 4. がん看護実践現場における課題を明確化できる。 							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画							担当者名
第1・2回	終末期がん患者が抱える様々な苦痛症状と看護援助 ・全人的な苦痛症状(身体・社会・精神・霊的側面)のアセスメント ・全人的ケアのための看護援助の方略							神里
第3・4回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(疼痛) ・疼痛コントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・疼痛コントロールの困難事例の検討							神里
第5・6回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(倦怠感) ・倦怠感のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・倦怠感のコントロールの困難事例の検討							神里
第7・8回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(呼吸困難) ・呼吸困難のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・呼吸困難のコントロールの困難事例の検討							謝花
第9・10回	症状コントロールのためのアセスメント技法と看護援助(吐き気・嘔吐) ・吐き気・嘔吐のコントロールのためのアセスメント技法と看護援助 ・吐き気・嘔吐のコントロールの困難事例の検討							謝花
第11・12回	症状コントロールのための補完代替療法の理論と実際(アロマセラピー) ・症状コントロールのためのアロマセラピーの理論 ・苦痛症状の緩和に対するアロマセラピーを活用した実践事例							神里
第13・14回	リンパ浮腫の病態生理とリンパマッサージの実際 ・終末期がん患者のリンパ浮腫の病態生理 ・リンパマッサージの実践事例							謝花
第15・16回	がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークの実際 ・がん患者の家族・遺族に対するグリーフワークとしての看護援助 ・がん患者の家族・遺族のグリーフワークに関する事例検討							謝花

第17・18回	補完代替療法を活用した化学療法中の苦痛症状の緩和 ・補完代替療法を活用した化学療法中の苦痛症状緩和のエビデンス	神里
第19・20回	補完代替療法を活用した放射線療法中の苦痛症状の緩和 ・補完代替療法を活用した放射線療法中の苦痛症状緩和のエビデンス ・実践で活用できるための方略 ・がん看護実践現場における課題の明確化と看護介入モデルの検討	神里
第21～30回	・臨床現場における課題を明確にするための情報収集 ・課題を明確にし、課題の解決に向けての看護活動の展開方略の検討 ・看護実践をするための調整(倫理調整含む) やコンサルテーションの方略 ・看護実践を行うための看護介入モデルの検討	神里 謝花
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本緩和医療学会. (2014). がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2014年版. 金原出版. ・日本緩和医療学会緩和医療ガイドライン委員. (2013). 終末期がん患者の輸液療法に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会. (2016). がん患者の呼吸器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版 ・日本緩和医療学会. (2011). がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン 金原出版. ・リンパ浮腫研究会. (2014). リンパ浮腫 診療ガイドライン、金原出版 ・日本リハビリテーション医学会 がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会. (2013). がんのリハビリテーションガイドライン, 金原出版株式会社 ・日本がんリハビリテーション研究会. (2015). がんのリハビリテーションベストプラクティス, 金原出版株式会社 ・リンパ浮腫ケア～がん患者のリンパ浮腫の理解と看護の役割～、13(7)、2008. ・木澤義之・齋藤洋司・丹波嘉一郎. (2015). 緩和ケアの基本 66 とアドバンス 44, -学生・研修医・これから学ぶあなたのために-, 南江堂 ・東京女子医科大学病院看護部. (2015). 急性期病院の終末期ケアと看取り-患者・家族の心をささえ, 中央法規 ・島崎寛将、倉津滋之、山崎圭一、江藤美和子. (2013). 緩和ケアが主体となる時期のがんのリハビリテーション、中山書店 ・日本緩和医療学会. (2014). 専門家をめざす人のための緩和医療学. 南江堂 ・日本緩和医療学会. (2016). がんの補完代替療法クリニカル・エビデンス 2016年版. 金原出版 ・広瀬 寛子. (2011) 悲嘆とグリーフケア. 医学書院 ・坂口 幸弘 . (2012). 死別の悲しみに向き合うーグリーフケアとは何か. 講談社 ・坂口 幸弘. (2010). 悲嘆学入門ー死別の悲しみを学ぶ. 昭和堂 <p>国内外の最新の学術論文を資料として配布する。</p>	
成績評価の方法	授業への参加姿勢(討議・発表)40%、レポートの内容(60%)	
備考	事前学習として、緩和ケア、終末期看護に関する最新の文献資料を熟読すること。授業は講義とゼミナール方式で行う。但し、実際の事例検討では臨床現場の自己の事例を可能な限り取り挙げるので、必要時に臨床での演習も取り入れる。	

科目 コード	51647	授業 科目	実践がん看護実習 I Practical Oncology Nursing Practicum I			担当 教員	○神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180時間					
授業概要	<p>1. がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発ができるような基礎的な能力を養う。</p> <p>2. がん看護専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）を実践の場で遂行できる能力を身につける。</p>							
到達目標	<p>1. 複雑な患者・家族の事例を2つ以上受け持ち、看護援助を展開することができる。</p> <p>2. 実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈し、説明することができる。</p> <p>3. がん看護専門看護師の役割について説明できる。</p>							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
	<p><実習の進め方></p> <p>実習の段階を2段階に分けて、各段階に応じたがん看護における専門的な看護実践能力を養う。各段階において2週間の実習を行い、計4週間の実習を行う(但し目標を達成しえない場合は延長する)。実習内容に関しては、事前に実習計画書を作成し、実習指導者や指導教員に提示し実習内容を検討してから開始する。実習指導者や指導教員は提示された実習内容に基づいて実習指導を行う。</p> <p>実習1：がん拠点病院（琉球大学医学部附属病院がんセンター）や緩和ケア病棟において複雑ながん患者や家族の事例を実際に受け持つことによって、質の高い看護援助を実践する。</p> <p>指導者：看護師長、緩和ケア認定看護師</p> <p>実習時期：1年前期後半～後期</p> <p>実習2：がん看護専門看護師が所属する施設において、がん看護専門看護師の指導の下に、専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）について見学・参画しながら学習する。</p> <p>指導者：がん看護専門看護師</p> <p>実習時期：2年次前期前半</p>						<p>神里</p> <p>謝花</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。							
備考								

科目コード	51648	授業科目	実践がん看護実習Ⅱ Practical Oncology Nursing PracticumⅡ			担当教員	○神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	90時間					
授業概要	がん患者やその家族の疾病・療養上の問題に対して、エビデンスに基づく高度な専門的知識・技術・判断能力を用いて質の高い看護援助の実践および看護援助の開発が自立してできるような能力を養う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複雑な患者・家族の事例を2つ以上受け持ち、看護援助を展開することができる。 2. 実践した一連の看護援助について、がん看護に関する理論や概念枠組みを用いて解釈することができる。 3. がん看護専門看護師の役割を意識した看護援助の展開ができる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
	<p><実習計画書の作成></p> <p>実習内容に関しては、事前に実習計画書を作成し、実習指導者や指導教員に提示し実習内容を検討してから開始する。</p> <p><実習内容></p> <p>がん患者の治療や療養に携わっている一般病院（がん拠点病院）において、実践がん看護実習Ⅰで習得してきたがん看護援助と専門看護師の役割を統合させて、がん看護専門看護師として、がん看護に携わる看護師の相談、教育、倫理調整、臨床研究指導について実践的な計画を立てて遂行してみる。</p> <p>指導者：がん看護専門看護師</p> <p>実習時期：2年前期後半</p>						<p>神里</p> <p>謝花</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	各実習の最終日に、指導者と教員の合同カンファレンスを持ち、実習の目標が達成できたかを評価する。各実習の終了時に、課題レポートを提出する。出席状況や実習中の態度を前提として、レポート60%、プレゼンテーションや討議40%を基に総合判断する。							
備考								

科目 コード	51649	授業 科目	実践がん看護課題研究 Practical Oncology Nursing Problem Study			担当 教員	◎神里みどり 謝花小百合	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	がん看護領域に関連した現場で(自分が)直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
1年次	<2年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～6月 CNS実習Ⅰ(4単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。						神里 謝花	
2年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <7月～ CNS実習Ⅱ(2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出 * 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 * 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験 * 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会 * 課題研究報告書(保存版)の提出 * ※()内は前学期修了予定の日程							
1年次	<3年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。							
2年次	<4月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。							

3年次	<p>4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定</p> <p>5月 研究課題にそって情報収集・情報分析</p> <p>6月・10月(2月)総合科目試験 *</p> <p><4月～ CNS実習Ⅱ(2単位)></p> <p>10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成</p> <p>12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出*</p> <p>1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出*</p> <p>2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験* 可否及び修了判定</p> <p>3月(9月) 公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出*</p> <p style="text-align: right;">※()内は前学期修了予定の日程</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	論文審査・最終試験は、主査1名・副査2名の体制で行います。	
備考	<p>研究指導教員、研究指導補助教員の指導計画に従って下さい。</p> <p>注) *のついた項目は、日程または提出期限が定められるものです。したがって、各自掲示には十分注意を払ってください。</p> <p>◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員です。</p>	

科目コード	51541	授業科目	実践慢性看護特論 I Practical Chronic Illness Nursing Theory I		担当教員	○山本敬子	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				
授業概要	<p>病者や家族が抱える慢性特有の複雑で解決困難な問題とその背景を学ぶ。 慢性病を病む人の行動理解に役立つ諸理論を学ぶ。</p>						
到達目標	<p>1.病者や家族が抱える慢性特有の複雑で解決困難な問題とその背景について説明できる。 2.慢性病を病む人の行動理解に役立つ諸理論について説明できる。</p>						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1・2回	慢性疾患を病む人々およびその家族の特徴					山本敬子	
第3・4回	慢性疾患から派生する障害の構造					〃	
第5・6回	慢性疾患の病みの軌跡					〃	
第7～10回	慢性疾患を病む人々の保健行動 ① セルフケアと自己決定 ② コンプライアンスとアドヒアランス					〃	
第11～13回	自己管理行動に関わる要因 ① 身体的状況 ② 無力感と希望 ③ 生活習慣 ④ 年齢・発達課題 ⑤ 健康観 ⑥ 環境・文化 ⑦ 家族介護力 ⑧ ソーシャルサポート					〃	
第14・15回	慢性疾患患者の QOL					〃	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	Ann Marriner - Tomey 他編集(2002)/都留伸子 監訳(2004). 看護理論家とその業績(第3版). 医学書院 Ilene Morof Lubkin, Pamala D. Larsen (2002)/黒江ゆり子訳(1997). クロニックイルネス 人と病いの 新たななかかわり. 医学書院 Pierre Woog(1992)/黒江ゆり子 訳(1995). 慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護 モデル. 医学書院 Anselm L. Strauss 他(1984)/南裕子 監訳(1987). 慢性疾患を生きる ケアとクオリティ・ライフの接 点. 医学書院 ※その他、適宜紹介する。						
成績評価の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51542	授業科目	実践慢性看護特論Ⅱ Practical Chronic Illness Nursing Theory II		担当教員	○山本敬子 未定、非常勤	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				
授業概要	慢性疾患を病む人々への支援技術とその評価方法に関する理論を学ぶ。						
到達目標	1. 慢性疾患を病む人々に対して療養上の自己管理能力を高めるための患者教育に関する理論及び社会資源を説明できる。 2. 慢性疾患患者および家族への看護援助を説明できる。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1～4回	慢性疾患を病む人々への患者教育 ① 患者教育環境 ピアカウンセリング、グループ療法 ② 患者教育とチームアプローチ					山本敬子 未定	
第5～9回	慢性疾患を病む人の自己管理に関わる理論 ① ケアリング論 ② ヘルスプロモーションとアンドラゴジー ③ セルフエフィカシーとエンパワーメント					〃	
第10～15回	慢性疾患看患者および家族への看護援助 ① 疾患・障害受容への援助 ② 基本的ニードへの援助 ③ 生活の質を高める援助 ④ 自己管理への援助 ⑤ 社会資源活用への看護援助 ⑥ 家族介護者への支援					非常勤	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	Ann Marriner - Tomey 他編集(2002)/都留伸子 監訳(2004). 看護理論家とその業績(第3版). 医学書院 Ilene Morof Lubkin, Pamala D. Larsen (2002)/黒江ゆり子訳(1997). クロニックイリネス 人と病いの新たななかかわり. 医学書院 Anselm L. Strauss 他(1984)/南裕子 監訳(1987). 慢性疾患を生きる ケアとクオリティ・ライフの接点. 医学書院 寺崎明美 編集(2010). 対象喪失の看護-実践の科学と心の癒し. 中央法規出版 小島 操子 著(2008). 看護における危機理論・危機介入-フィンク/コーン/アグイレラ/ムース/家族の危機モデルから学ぶ. 金芳堂 山本 和郎 著(1986). コミュニティ心理学-地域臨床の理論と実践. 東京大学出版会 坂野 雄二. 前田 基成 著(2002). セルフ・エフィカシーの臨床心理学. 北大路書房 ※その他、適宜紹介する。						
成績評価の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51543	授業科目	実践慢性看護特論Ⅲ Practical Chronic Illness Nursing Theory III		担当 教員	○山本敬子、未定 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・特論	授業 形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				
授業概要	慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術とその評価方法に関する理論を学ぶ。						
到達目標	1.慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術とその評価方法に関する理論について説明できる。 2.慢性看護における果たすべき専門看護師の役割と機能を理解し、課題を述べることができる。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1～7回	病期の特徴と援助 ① 発病期 ② 急性増悪期 ③ 慢性安定期 ④ ターミナル期					山本敬子 未定	
第8～9回	慢性看護における倫理的問題					山本敬子	
第10～15回	専門看護師の機能と役割 ① 慢性看護における直接ケア、相談・調整、教育 ② 慢性疾患に特有なコンサルテーションの課題 ③ 慢性疾患特有の倫理的調整					未定 非常勤講師	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。。						
成績評価の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51544	授業科目	実践慢性看護特論Ⅳ Practical Chronic Illness Nursing Theory IV		担当教員	○山本敬子、未定、 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義
選択必修	選択（分野必修）	時間数	30時間				
授業概要	慢性病を病む人々に適用される保健・医療・福祉の制度や体制とその革新方策を学ぶ。						
到達目標	慢性病を病む人々に適用されるケアシステムとその革新方策について説明できる。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1～6回	慢性疾患予防に向けた保健・医療・福祉体制とその問題点 ① 生活習慣病の第一次予防体制 ② 生活習慣病の第二次予防体制 ③ 生活習慣病の第三次予防体制					山本敬子 未定 非常勤講師	
第7～12回	慢性疾患や障害を病む人々の保健・医療・福祉制度や体制とその問題点 ① 慢性疾患や障害をもつ人々の機能回復・維持へ向けた援助 ② 慢性疾患や障害をもつ人々の在宅ケア ③ 慢性疾患や障害をもつ人々のターミナルケア					〃	
第13～15回	継続ケアシステム構築における実践的課題					〃	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。						
成績評価の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51545	授業科目	実践慢性看護演習 I Practical Chronic Illness Nursing Seminar I		担当教員	○山本敬子 未定 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間				
授業概要	慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術とその評価方法に関する実際を演習する。						
到達目標	1. 慢性疾患やそれによる障害を病む人々の身体的、心理社会的側面からみた包括的なアセスメント技術を身につけることができる。 2. 習得したアセスメント技術を看護実践に適用する。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1回	慢性疾患患者のヘルスアセスメントの目的と意義					山本敬子	
第2回	ヘルスヒストリーのガイドライン					〃	
第3・4回	慢性疾患患者へのインタビュー・コミュニケーション技法					〃	
第5~16回	アセスメント技法 ① フィジカルアセスメントの基本的技法 ② 系統的フィジカルアセスメント技法 (呼吸・循環・脳・神経・内分泌・代謝・消化器等)					山本敬子 非常勤講師 未定	
第17・18回	機能的自立度評価法 運動、認知					非常勤講師 未定	
第19~21回	心理社会的側面に関する情報のアセスメント ① 自己概念に関する情報のアセスメント ② 役割に関する情報のアセスメント ③ QOLに関する情報のアセスメント					山本敬子 未定	
第22~30回	疾患別アセスメント（事例検討） ① 糖尿病患者 ② 脳血管障害患者 ③ 慢性呼吸器疾患患者					山本敬子 未定	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。						
成績評価の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポート等を総合して評価する。						
備考							

科目コード	51546	授業科目	実践慢性看護演習Ⅱ Practical Chronic Illness Nursing SeminarⅡ			担当教員	○山本敬子、未定 非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	60時間					
授業概要	慢性病を病む人々の治療環境、地域社会支援などを、質の高い生活に向けて調整する方策を学び、実践への適用について資料を収集し討議考察する。							
到達目標	1.慢性病を病む人々の治療環境について現状から課題を導くことができる。 2.慢性病を病む人々の在宅での療養を支援する方策を理解し、実践現場に活用できる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1～4回	我が国および沖縄県における慢性疾患患者の治療環境の現状と課題 (糖尿病、脳血管障害、慢性呼吸器疾患、虚血性心疾患、腎不全等)						山本敬子 未定	
第5～8回	糖尿病患者の治療環境の現状と支援の方策 ① 糖尿病教育入院の現状 ② 糖尿病専門外来、療養相談活動の現状 ③ 糖尿病療養相談活動拡大に向けての方策						非常勤講師	
第9～12回	脳血管障害患者の治療環境の現状と支援の方策 ① 脳血管障害患者再入院の現状 ② 脳血管障害患者の療養相談活動の現状 ③ 脳血管障害患者の相談活動拡大に向けての方策						山本敬子 非常勤講師	
第13～16回	慢性呼吸器疾患患者の治療環境の現状と支援の方策 ① 慢性呼吸器疾患患者再入院の現状 ② 慢性呼吸器疾患患者の療養相談活動の現状 ③ 慢性呼吸器疾患患者の相談活動拡大に向けての方策						山本敬子 非常勤講師	
第17～24回	我が国および沖縄県における慢性疾患患者の社会復帰・社会生活維持および社会生活支援などの看護体制と課題 (糖尿病、脳血管障害、慢性呼吸器疾患、虚血性心疾患、腎不全等)						山本敬子 未定 非常勤講師	
第25～27回 第28～30回	慢性疾患患者を対象とした療養相談活動の拡大・充実への方策 慢性疾患患者を支えるヘルスケアシステムのあり方と将来展望						山本敬子 未定 非常勤講師	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	自主的な討論への参加状況、プレゼンテーション、レポート等を総合して評価する。							
備考								

科目 コード	51547	授業 科目	実践慢性看護実習 I Practical Chronic Illness Nursing Practicum I		担当 教員	○山本敬子 未定	
開講年次	博士前期課程 1～2年次前期	単位数	4単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習
選択必修	選択（分野必修）	時間数	180時間				
授業概要	1. 慢性疾患患者とその家族に対して、専門看護師として質の高い看護ケアを提供できる能力を養う。 2. 専門看護師の役割のうち患者ケアにおける倫理的問題の調整に関して実践能力を養う。						
到達目標	1. 慢性疾患患者とその家族に対して高度な知識と的確な臨床判断および熟練した技術を用い、質の高い看護ケアを実践できる。 2. 慢性疾患患者とその家族に対して、尊厳を守り患者の持つ倫理的問題を調整・解決することができる。						
回数	授業内容及び計画					担当者名	
第1週 ～ 第4週	<p>オリエンテーション：専門看護師の職場環境を理解した上で、実習を行う。</p> <p>実習施設：①地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター②医療法人 貴和の会 すながわクリニック ③県立南部医療センター</p> <p>実習方法：病棟、地域連携室、外来、在宅ケアでの実習で継続看護の視点で実習が行えるように、担当教員と相談の上、指定された上記の施設から実習施設を選び、担当教員並びに専門看護師に相当する指導ナースの指導のもと実習を行う。</p> <p>・病棟において患者や家族が抱える慢性病特有の複雑で解決困難な事例を2例選定し、必要な看護活動を実践する。 ・受け持ち事例の在宅療養に向けた継続看護に関わる関係職種との連携に参加する。 ・外来において退院後の在宅療養における自己管理状況とサポート体制について評価を行う。 ・訪問看護関連施設において慢性疾患患者の在宅ケア及び関係職種との連携に参加し、在宅での自己管理状況とサポート体制を把握する。 ・患者ケアにおける倫理的問題に関わる調整を実施する。</p> <p>カンファレンス：問題をケースレポートにまとめ、ケース検討を行う。</p> <p>実習報告書：①～③をレポートにまとめ、それぞれ提出する。 ①事例の患者や家族が抱える慢性病特有の複雑で解決困難事例に対し行った看護実践 ②慢性疾患患者の在宅療養における現状と課題とを考察 ③相談・調整、倫理的問題調整のそれぞれの実際と考察</p>					山本敬子 未定	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。						
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。						
成績評価の方法	実習態度、実習計画書、実習報告書、実習カンファレンスの参加状況、プレゼンテーション、実習指導者からの情報に基づき、総合的に判断する。						
備考							

科目 コード	51548	授業 科目	実践慢性看護実習Ⅱ Practical Chronic Illness Nursing Practicum Ⅱ			担当 教員	○山本敬子 未定、非常勤講師	
開講年次	博士前期課程 1~2年次前期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・実習	授業 形態	実習	
選択必修	選択（分野必修）	時間数	90時間					
授業概要	専門看護師の役割のうち相談・調整、看護職への教育、看護体制の改善、ケア技術の開発に関して実践能力を養う。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職者に対して専門看護師に相当する役割を持つ専門職者とともに相談・調整機能を実践できる。 2. 看護職者に対して専門看護師に相当する役割を持つ専門職者とともに看護職への教育を実践できる。 3. 看護職者に対して専門看護師に相当する役割を持つ専門職者とともに、看護体制の改善を実践できる。 4. 離島における慢性疾患患者の看護の現状と課題を述べるができる。 5. 専門看護師に相当する役割を持つ専門職者とともに離島看護職へのコンサルテーションが実践できる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1週	実習施設 ：①宮古島市の市町役場並びに病院（地域連携室） 実習方法 ：担当教員と相談の上、指定された上記の施設から実習施設を選び、担当教員並びに専門看護師に相当する指導ナースの指導のもと各々の施設で1週間ずつ行う実習を行う。 <市町役場実習>1週間 ・離島住民のメタボリックシンドロームなど健康上のリスクに関する情報の保有ならびに看護活動を把握する。 ・離島における慢性疾患患者の全症例の状況並びに看護状況を把握し、離島における看護上の問題を理解する。						山本敬子 未定 非常勤講師	
第2週	<病院（地域連携室）>1週間 ・離島の看護上の問題を理解し、FCSを使って教育的な支援をする。 患者教育、看護職への教育・相談 ・病院（地域連携室）並びに慢性疾患患者ケア検討会においてケア体制改善に関する活動に参加し、看護体制を点検・評価し、改善案の作成過程に参画する。 カンファレンス ：学生は指導ナースとともに FCS を使って指導教員とのケース検討を行う。 実習報告書 ：①～③をレポートにまとめ、それぞれ提出する。 <市町村役場実習> ①離島住民の慢性疾患につながる健康上のリスクおよび問題を分析し、求められる看護活動の検討 <病院（地域連携室）> ②患者教育、看護職への教育・相談の実際とその考察 ③ケア体制改善に関する活動の参加をとおして、看護体制を点検・評価し、改善案の作成過程とその考察							
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	実習態度、実習計画書、実習報告書、実習カンファレンスの参加状況、プレゼンテーション、実習指導者からの情報に基づき、総合的に判断する。							
備考								

科目 コード	51549	授業 科目	実践慢性看護課題研究 Practical Chronic Illness Nursing Problem Study			担当 教員	◎山本敬子 未定	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目 分類	専門科目・課題研究	授業 形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	慢性看護領域に関連した現場で(自分が)直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。							
回数	授 業 内 容 及 び 計 画						担当者名	
1年次	<2年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～6月 CNS実習Ⅰ(4単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。						山本敬子 未定	
2年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <7月～ CNS実習Ⅱ(2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出 * 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 * 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験 * 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会 * 課題研究報告書(保存版)の提出 * ※()内は前学期修了予定の日程							
1年次	<3年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。							
2年次	<4月～3月 CNS実習Ⅰ(2単位)>							

3年次	<p>実習体験を通して課題を明確化する。</p> <p>4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定</p> <p>5月 研究課題にそって情報収集・情報分析</p> <p>6月・10月(2月)総合科目試験 * <4月～ CNS実習Ⅱ(2単位)></p> <p>10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成</p> <p>12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出*</p> <p>1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出*</p> <p>2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定</p> <p>3月(9月) 公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出*</p> <p style="text-align: right;">※()内は前学期修了予定の日程</p>	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験(口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験(口頭又は筆答による)を行う。	
備考	<p>注) *印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自揭示には十分注意を払うこと。</p> <p>◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。</p>	

科目コード	51551	授業科目	実践老年看護特論 I Practical Geriatric Nursing Theory I			担当教員	○大湾明美 田場由紀	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	老年看護に関する概念や歴史を理解し、高齢者の特性及びそのアセスメントとケアを習得し、高度な看護実践に必要な高齢者の健康生活への理解を深める。							
到達目標	1. 高齢者及び老年看護に関連する概念、歴史について、述べることができる。 2. 高齢者の特性(身体機能、精神機能、社会機能、生活環境、地域文化)について、述べることができる。 3. 高齢者ケアにおけるアセスメントとケアについて、述べることができる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1回	高齢者及び老年看護の概念 (老年期とは？、健康とは？生活とは？等)						大湾明美	
第2回	老年看護の歴史 (日本及び諸外国における老年看護の歴史等)						〃	
第3回 ～ 第7回	高齢者の特性 ①生活環境:生活の場、高齢者とバリアフリー、地域特性等 ②身体機能:加齢と老化、生理機能、感覚機能、老年症候群等 ③精神機能:生きがい、主観的健康感、主観的幸福感等 ④社会機能:社会関係、サクセスフルエイジング等 ⑤地域文化:高齢者と地域文化等						田場由紀 〃 大湾明美 〃 〃	
第8回 ～ 第13回	高齢者ケアにおけるアセスメントとケア ①アセスメントとケアの基本 ②コミュニケーション、面接技法 ③評価方法、アセスメントツール ④食事機能 ⑤排泄機能と清潔機能 ⑥移動機能						大湾明美 〃 〃 田場由紀 〃 〃	
第14回	老年看護における実践・教育・研究の動向と課題						大湾明美	
第15回	まとめ						大湾明美	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	授業への参加態度、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。							
備考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。							

科目コード	51552	授業科目	実践老年看護特論Ⅱ Practical Geriatric Nursing Theory II			担当教員	○大湾明美 田場由紀	
開講年次	博士前期課程 1年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	複雑な健康問題を持つ高齢者について、老年期の発達課題、老年看護の理論・モデル、高齢者のセルフケア、高齢者の倫理についての理解を深める。また、家族を含めて高齢者の抱える健康問題を解決するために、家族を理解するための理論や家族関係などを学習する。							
到達目標	1. 老年期の発達課題について、述べるができる。 2. 老年看護に用いられる主要な理論・モデルについて、述べるができる。 3. 高齢者のセルフケアに関する理論と実際について、述べるができる。 4. 高齢者と家族の問題と解決方法について、述べるができる。 5. 高齢者をめぐる倫理上の課題について、述べるができる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1回	老年期の発達課題						大湾明美	
第2回	①ライフサイクル、エイジング、エリクソン等						〃	
第3回	②自我発達						〃	
第4回	老年看護の理論・モデル						〃	
第5回	①ストレングスモデル、エンパワメント等						〃	
第6回	②役割理論、危機理論、社会的学習理論等						〃	
第7回	③ニーズ論						〃	
第8回	高齢者のセルフケア						田場由紀	
第9回	①セルフケアの概念、セルフケア理論等						〃	
第10回	②セルフケアをめぐる看護研究						〃	
第11回	③高齢者のセルフケア能力を活かした看護						〃	
第12回	④家族のセルフケア機能、家族のセルフケアと看護						〃	
第13回	高齢者と家族						大湾明美	
第14回	①家族の定義、家族の健康、家族の形態と機能等						〃	
第15回	②家族を理解するための理論:家族関係論、家族システム論等						〃	
第16回	③家族関係の問題と解決方法						〃	
第17回	④介護者としての家族						〃	
第18回	高齢者と倫理 (自己決定、インフォームドコンセント、人権擁護)						〃	
第19回	まとめ						〃	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。							
備考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。							

科目コード	51553	授業科目	実践老年看護特論Ⅲ Practical Geriatric Nursing Theory Ⅲ			担当教員	○大湾明美 田場由紀	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	高齢者のサポートシステムの現状と実際について理解し、今後の高齢者のためのサポートシステムを創造し、提案する。							
到達目標	1. 高齢者のサポートシステムの基本的な概念について、述べることができる。 2. 高齢者の保健・医療・福祉・看護のサポートシステムの現状について、述べることができる。 3. 高齢者のサポートシステムの実際を具体的に理解することができる。 4. 高齢者のサポートシステムを創造し、提案することができる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1回	高齢者のサポートシステムの基本的な概念(ケアマネジメント、ソーシャルサポート等)						大湾明美	
第2回	高齢者のサポートシステムの現状						〃	
～	①保健・医療からみたサポートシステム						〃	
第4回	②福祉・介護からみたサポートシステム						〃	
	③看護からみたサポートシステム							
第5回	高齢者のサポートシステムの実際①						田場由紀	
第6回	在宅の事例							
第7回	高齢者のサポートシステムの実際②						田場由紀	
第8回	新しい住まいの事例							
第9回	高齢者のサポートシステムの実際③						大湾明美	
～	地域における事例							
第12回								
第13回	高齢者のサポートシステムの創造						〃	
第14回	今後のサポートシステムの提案							
第15回	まとめ						大湾・田場	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。							
備考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。							

科目コード	51554	授業科目	実践老年看護特論Ⅳ Practical Geriatric Nursing Theory IV			担当教員	○大湾明美 田場由紀 桑田美代子(非常勤)	
開講年次	博士前期課程 1年次後期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・特論	授業形態	講義	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	30時間					
授業概要	高齢者を取り巻く社会の変遷と社会保障、高齢者ケアに関連する政策、老人看護専門看護師の活動と看護管理の現状と実際について、理解を深める。							
到達目標	1. 高齢者を取り巻く社会の変遷と社会保障について、述べることができる。 2. 高齢者ケアに関連する政策について、述べることができる。 3. 老人専門看護師の活動をとおしてその役割機能等について、述べることができる。 4. 看護管理の現状と課題について、述べることができる。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1回	高齢者を取り巻く社会の変遷						大湾明美	
第2回	〃						〃	
第3回	超高齢社会における社会保障の動向						〃	
第4回	〃						〃	
第5回	保健・医療・福祉・介護の政策						田場由紀	
第6回	〃						〃	
第7回	老年看護に関連する政策						〃	
第8回	〃						〃	
第9回	老人専門看護師の活動						桑田美代子(非常勤)	
第10回	①専門看護師誕生の背景、歴史、教育課程等 ②老人看護専門看護師の役割機能						〃	
第11回	高齢者ケア施設における看護管理の現状と課題						〃	
第12回	〃						〃	
第13回	高齢者ケア施設における看護管理の研究の現状と課題						大湾明美	
第14回	〃						〃	
第15回	まとめ						大湾明美	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。							
備考	進め方:各教員が専門的立場から講義形式を中心に行う。 運営:授業への主体的参加を前提に、院生の発表と討議により理解を深める。							

科目コード	51555	授業科目	実践老年看護演習 I Practical Geriatric Nursing Seminar I			担当教員	○大湾明美 田場由紀	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	在宅における高齢者ケアがエビデンスに基づいて実践できるように、重要な概念及び現状と課題について、最新の国内外の文献を通して知識を深め、自己の課題を明確化する。 また、在宅の高齢者ケアにおける高度の看護専門職者としての役割機能について、学習する。							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅における高齢者ケアにおける重要な概念及びケアの現状と課題について、述べることができる。 2. 文献学習により在宅における高齢者ケアの知識を深め、研究方法や問題解決方法等の多様性を理解することができる。 3. 文献学習の結果を自己の課題につなげ、在宅における高齢者ケアの改善のための提案をすることができる。 4. 在宅における高齢者ケア、特に生活環境、生活活動、家族関係における看護の役割機能について、述べることができる。 5. 学生の関心を基に、実践上及び研究上の疑問を明らかにし、実習や課題研究に役立てることができる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
第1・2回	在宅における高齢者ケアの重要な概念及びケアの現状と課題						大湾明美	
第3～12回	文献学習①(認知症高齢者ケアに関する文献)〔教員または学生による提示〕						〃	
第13・14回	文献学習の報告及び自己の課題の提案(学生報告)						〃	
第15・16回	在宅における高齢者ケアにおける自己の課題の明確化						〃	
第17～22回	文献学習②(自己の課題に関連する文献)						〃	
第23・24回	在宅における高齢者ケアにおける看護の役割機能(直接ケア、相談、調整、教育)						田場由紀	
第25・26回	生活環境、生活活動に関する看護の役割機能(直接ケア、相談、調整、教育)						〃	
第27・28回	家族関係に関する看護の役割機能(直接ケア、相談、調整、教育)						〃	
第29・30回	在宅における高齢者ケアの改善のための計画書の報告及び課題の提案						大湾明美・ 田場由紀	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。							
備考	進め方:演習内容により、資料や文献等を用いて進める。 運営:前半は教員主導、後半は学生主導で行う。							

科目コード	51556	授業科目	実践老年看護演習Ⅱ Practical Geriatric Nursing Seminar II			担当教員	○田場由紀 大湾明美	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・演習	授業形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	<p>認知症高齢者ケアがエビデンスに基づいて実践できるように、重要な概念及び現状と課題について、最新の国内外の文献を通して知識を深め、自己の課題を明確化する。</p> <p>また、認知症高齢者ケアにおける高度の看護専門職者としての役割機能について、学習する。</p>							
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症高齢者ケアにおける重要な概念及びケアの現状と課題について、述べることができる。 2. 文献学習により認知症高齢者ケアの知識を深め、研究方法や問題解決方法等の多様性を理解することができる。 3. 文献学習の結果を自己の課題に繋げ、認知症高齢者ケアの改善のための提案をすることができる。 4. 認知症高齢者ケア、特に生活環境、生活活動、家族関係における看護の役割機能について、述べるができる。 5. 学生の関心をもとに、実践上及び研究上の疑問を明らかにし、実習や課題研究に役立てることができる。 							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
1回-2回	認知症高齢者ケアにおける重要な概念及びケアの現状と課題						田場由紀	
3回-14回	文献学習① 認知症高齢者ケアの現状						〃	
15回-22回	文献学習② 認知症高齢者ケアの開発と課題						〃	
23回-24回	認知症高齢者ケアにおける看護の役割機能(直接ケア、相談、調整、教育)						大湾明美	
25回-27回	生活環境、生活活動に関する看護の役割機能(直接ケア、相談、調整、教育)						〃	
27回-28回	家族関係に関する看護の役割機能(直接ケア、相談、調整、教育)						〃	
29回-30回	認知症高齢者ケアの改善のための方法						田場由紀・ 大湾明美	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。							
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。							
成績評価の方法	授業への参加態度や、討論、プレゼンテーション、課題レポートに基づき、総合的に行う。							
備考	進め方:演習内容により、資料や文献等を用いて進める。 運営:前半は教員主導、後半は学生主導で行う。							

科目コード	51557	授業科目	実践老年看護実習 I Geriatric Nursing Practicum I			担当教員	○田場由紀 大湾明美	
開講年次	博士前期課程 2年次前期	単位数	4単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	180 時間					
授業概要	認知症や脳血管障害等により生活機能障害を持つ高齢者が生活している施設と在宅の場で、対象を総合的にアセスメントし生活ニーズを導き、直接ケア、教育、相談、調整の役割機能をいかし、高度な看護実践者としての能力を養う。							
到達目標	1. 認知症などの生活機能障害を持つ高齢者の生活ニーズを解決するために、高度のアセスメント、計画、実施(直接ケア、教育、相談、調整)、評価を展開することができる。 2. 施設と在宅での高齢者ケアの実習を通して、看護実践上の課題を述べることができる。 3. 高度な看護実践者として、看護実践上の課題の解決に向けた提案ができる。							
回数	教育内容及び計画						担当者名	
	1. 在宅でケアを受けている場での実習〔訪問看護ステーション等〕(4週間) (浦添市:名嘉村クリニック在宅ケアセンター) 1) 訪問看護ステーション等で、老人看護専門看護師相当の指導者(師長、所長、看護部長)の指導を受け、アセスメント、計画、実施(直接ケア、教育、相談、調整)、評価の看護実践を行う。 2) 看護実践事例のうち 3 事例を選択し、ケースレポートを作成する。事例選定は、認知症高齢者、実習先の処遇困難事例を含むものとする。 3) ケースレポートをもとに担当教員と事例検討し、看護実践上の課題を見いだす。 4) 看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員とディスカッションをする。 5) 課題の解決に向けたレポートを作成し、老人看護専門看護師相当の指導者にプレゼンテーションし、課題解決の具体策を共に検討する。 2. 集団でケアを受けている場での実習〔認知症高齢者の施設等〕(4週間) (那覇市:オリブ山病院認知症治療病棟) 1) 認知症高齢者の施設等で、老人看護専門看護師相当の指導者(師長、所長、看護部長)の指導を受け、アセスメント、計画、実施、評価の看護実践を3事例行い、ケースレポートを作成する。 2) 3事例のアセスメント、計画、実施、評価のケースレポートを作成し、看護実践上の課題を見いだす。 3) 看護実践上の課題の解決に向けたレポートを作成し、プレゼンテーションし、指導教員及び老人看護専門看護師相当の指導者とディスカッションをする。						田場由紀 大湾明美	
教育の進め方、運営、評価	進め方:学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 運営:学生の主体で展開する。 評価:ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。							
備考								

科目コード	51558	授業科目	実践老年看護実習Ⅱ Geriatric Nursing Practicum II			担当教員	○大湾明美 田場由紀	
開講年次	博士前期課程 2年次前期	単位数	2単位	科目分類	専門科目・実習	授業形態	実習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	90時間					
授業概要	認知症高齢者の看護活動をととして、高度な看護実践者に必要な家族を含む認知症高齢者への直接ケアを習得する。また、高齢者ケアの場で、看護職や保健医療福祉の専門職者への教育、相談、調整の能力を習得する。							
到達目標	1. 認知症高齢者専門施設などで、家族を含む認知症高齢者への高度な直接ケアができる。 2. 高齢者ケアの場で老人看護専門看護師の指導のもとに、専門看護師としての看護活動が理解できる。							
回数	教育内容及び計画						担当者名	
	1. 認知症高齢者専門施設における実習(1週間)(岡山県:きのこ介護老人保健施設) <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人看護専門看護師相当の指導者のもとに、「実践老年看護実習Ⅰ」での認知症高齢者事例からの学びや看護実践上の課題の解決方法をいかし、家族へのケアを含めて看護活動を実践する。 2) 看護活動の実践を、専門看護師に求められる役割機能(直接ケア、教育、相談、調整)にそってレポートを作成する。 3) レポートをもとに、プレゼンテーションし、担当教員とディスカッションを行う。 4) 老人専門看護師が身につけるべき看護実践の知識とスキルについてレポートする。 2. 老人看護専門看護師が勤務する機関・組織における実習(1週間)(東京都:青梅慶友病院) <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人看護専門看護師の看護活動(直接ケア、スタッフへの教育、相談、調整、管理運営)に参加する。 2) 老人看護専門看護師の看護職や保健医療福祉の専門職者へのコンサルテーションや調整の視点からレポートを作成する。 3) レポートをもとに、プレゼンテーションし、担当教員と老人看護専門看護師とディスカッションを行う。 4) 老人専門看護師が身につけるべきコンサルテーションや調整についてレポートする。 3. 最終報告及び担当教員とのディスカッション 「実践老年看護実習Ⅰ」、「実践老年看護実習Ⅱ」の実習を振り返り、最終報告を行い、担当教員とディスカッションをし、「実践老年看護課題研究」につなげる。						大湾明美 田場由紀	
教育の進め方、運営、評価	進め方:学生は主体的に担当教員と実習先の指導者と調整し、指導のもとに計画、実施する。 運営:学生の主体で展開する。 評価:ディスカッションにおける参加度、実習先の指導者の情報、実習計画書、プレゼンテーション内容、ディスカッション内容、レポートに基づき、総合的に評価する。							
備考								

科目コード	51559	授業科目	実践老年看護課題研究 Practical Geriatric Nursing Problem Study			担当教員	◎大湾明美 田場由紀	
開講年次	博士前期課程 1～2年次	単位数	2単位	科目分類	専門科目・課題研究	授業形態	演習	
選択必修	選択(分野必修)	時間数	60時間					
授業概要	老年看護領域に関連した現場で(自分が)直面する課題に焦点をあて、講義・演習・実習を通して得た課題の知識・技術を参考に、看護実践の改善・改革に関する報告書を作成する。							
到達目標	1. 研究指導教員の指導の下で研究課題を明確化し、看護実践上の問題の追及ならびにその改善・改革を考究できる。 2. 論理的・倫理的思考ができ、実践における事実や思考過程のプロセスを記述できる。 3. 専門職者として生涯学習する態度を身につける。							
回数	授業内容及び計画						担当者名	
1年次	<2年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～6月 CNS実習 I (4単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。						大湾明美 田場由紀	
2年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <7月～ CNS実習 II (2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出 * 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出 * 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験 * 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会 * 課題研究報告書(保存版)の提出 * ※()内は前学期修了予定の日程							
1年次	<3年間での修了予定の場合> 4月 入学時ガイダンス：実践看護の課題に関するオリエンテーション* 研究指導教員希望届の提出・決定* 履修指導、履修届の提出* <11月～3月 CNS実習 I (2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。							

2年次	<4月～3月 CNS実習 I (2単位)> 実習体験を通して課題を明確化する。	
3年次	4月 課題研究計画書の作成 研究倫理審査申請 研究フィールドの依頼と決定 5月 研究課題にそって情報収集・情報分析 6月・10月(2月)総合科目試験 * <4月～ CNS実習 II (2単位)> 10月(4月) 課題研究報告書作成 主査・副査の決定 考察・論文作成 12月(6月) 課題研究報告書(第1稿)・学位審査申請書の提出* 1月(7月) 中間発表会、課題研究報告書(最終稿)の提出* 2月(8月) 課題研究報告書審査・最終試験* 合否及び修了判定 3月(9月) 公開発表会* 課題研究報告書(保存版)の提出* ※()内は前学期修了予定の日程	
テキスト	関連資料、文献などを適宜配付する。	
参考文献	必要に応じ参考資料、参考文献などを適宜配付する。	
成績評価の方法	審査委員会により総合科目試験(口頭及び筆答による)、課題研究報告書の審査および最終試験(口頭又は筆答による)を行う。	
備考	注) *印のついた項目は、日程または提出期限が定められるものである。したがって、各自掲示には十分注意を払うこと。 ◎は研究指導教員、それ以外は研究指導補助教員を示す。	